

8 機械化体系

さとうきびは土地利用型作物であり、生産農家の減少および高齢化が進展する状況の中においては、農作業の合理化を図る必要があり、収穫作業の機械化が極めて重要である。

そのため、ハーベスタ(収穫機)の導入を進めた結果、収穫に係る労働時間は減少しているものの、単収は低下傾向にある。その要因として、必要な栽培管理作業が適期に行なわれていないことや、ハーベスタ等による株の踏圧及び引抜きによる原料茎数の減少が指摘されている。

このようなことから、さとうきびの安定生産のためには、植付から収穫までの機械化一貫体系を確立し、農業機械の適正な利用を図る必要がある。

